
プレスリリース

香港 | 2022 年 5 月 29 日

アートバーゼルは好調なセールスとハイブリッドプログラムを実現した精力的な会期を経て、2022 年度の香港フェアを閉幕

- 2022 年度のアートバーゼル香港は、全会期を通して多くの来場者と好調なセールス報告の元、本日閉幕致しました。
- ハイブリッド形式として 2 回目の開催となるフェアには、サテライトブースに参加した 75 軒を含む 130 軒のギャラリーを迎え、同時に多くのデジタルプログラムを通して、世界中の幅広い観客との繋がりも実現致しました。
- アートバーゼルと M+ による初の共同コミッションプロジェクトとして、エレン・パウによるサイトスペシフィック映像作品「The Shape of Light (光のかたち)」が、M+美術館ファサードにて展示されました。
- UBS をリードパートナーとするアートバーゼルは、2022 年 5 月 27 日から 5 月 29 日の期間、香港コンベンション&エキシビションセンター (HKCEC) にて開催されました。

2022 年度のアートバーゼル香港は、その全部門を通して、実会場並びにデジタルプラットフォーム双方におけるコレクターへの一貫した好調な売上報告の元、2022 年 5 月 29 日に閉幕しました。今年のフェアはまた地元のアーティストに焦点を当て、香港および世界との有意義なつながりを生み出す精力的なパブリックプログラムも実施致しました。香港を拠点とする映像アートの先駆者、エレン・パウによるサイトスペシフィック最新作「The Shape of Light (光のかたち)」はアートバーゼルと M+ の共同コミッションの元、リードパートナーである UBS の支援を受け、初の共同コミッションプロジェクトとして M+美術館 LED ファサードへの展示を実現しました。またアートバーゼルのコミッション、香港政府観光局の共同プレゼンテーションとして実施されたアーティストトラムプロジェクトは、地元のアーティスト、卓家慧 (Cherie Cheuk Ka-wai)、黄進曦 (Stephen Wong Chun-hei)、沈君怡 (Shum Kwan-yi) を招き、香港を象徴するトラムの外壁に作品を投影しました。

アートバーゼルのデジタルイニシアチブである「アートバーゼルライブ：香港」も再び実施され、オンラインビューイングルームやソーシャルメディア番組、ライブ配信によるカンパセーションなど、多様なデジタルプログラムも提供されました。会期中に数多く実施されたバーチャルウォークスルーには 30 以上の国や地域、特に中国本土、韓国、台湾、シンガポール、米国そしてスイスからのプライベートコレクターの参加が見られ、同時にコチビエンナーレ財団（ケーララ）、ヌサンタラ近現代美術館（ジャカルタ）、国立現代美術館（ソウル）、森美術館（東京）、OCAT 深圳館（深セン）、シンガポール美術館（シンガポール）そしてユーレンス現代美術センター（北京）といった世界の主要な美術館や美術機関からの代表陣の参加も見られました。また、1a スペース、アジアアートアーカイブ、アジア・カルチュラル・カウンシル、アジアソサイエティ、香港芸術センター、香港美術館、M+、パラサイトといった香港の主要美術機関のパトロン陣によるオンラインプログラムへの参加も見られました。

「会期中は数多くの卓越した文化的コラボレーションが実施され、本当に意義のあるものとなりました。そしてバーチャルと実会場双方の実現は、アートバーゼル香港のアジアにおける主要な国際アートプラットフォームという役割をより強固なものとししました。」

アートバーゼル、ディレクターアジアのアデルリン・ウーイはこのようにコメントしています。「過去数ヶ月間に渡る困難な状況にも関わらず、香港はフェアの支援に尽力下さいました。また、香港フェアに参加下さった 130 軒のギャラリーと香港の美術機関・非営利団体、特にエレン・パウの新しいサイトスペシフィック映像作品を展示した M+に深く感謝致します。M+美術館 LED ファサードへの展示は初の共同コミッションプロジェクトとなりました。」

「2022 年のアートバーゼル香港は、香港市場の強さと回復力、その双方の真の証です」

アートバーゼル、グローバルディレクターであるマーク・シュピーグラーはこう述べています。「国際的な参加者が減少したにもかかわらず、全フェア開催期間を通じたその安定したセールスは、香港におけるコレクター基盤の成長とその尽力を前面に押し出しました。そこには初めて作品を購入した人々も含まれます。同時にフェアのデジタルプログラムへの取り組みは、オンラインセールスの継続した成長と、かつてない幅広い観客へと繋がる新しいバーチャルフォーマットの重要性をも明示しています。」

フェアにて展示を行ったギャラリー陣はその参加と経験を以下のように高く評価しています。

「コレクターが来場して購入してくれました！最初の数時間でほぼ完売し、この数日の間に41点を売り上げました。渡航が叶わなかったコレクターは WeChat と WhatsApp を通じて連絡を下さり、ビデオ通話で作品を確認し購入に至りました。アジア市場で存在感を示したいのであれば、アートバーゼルは避けて通れない場所だと思います。』

パスカル・デュ・サルト、創設者、デュサルト（香港）

「今年のアートバーゼル香港への参加を決めた事をとても嬉しく思います。最初の数時間でほぼ完売することができました。アートバーゼルは世界の観客に向けて日本のアーティストをプロモートする為の最善のプラットフォームです。フェアでの全ての経験は7日間の隔離を経ても価値のあるものだと思います。」

蜷川敦子、オーナー・ディレクター、タケナガワ（東京）

「新型コロナに伴う制限の終わりが見通せない中、アートバーゼル香港は中止となる可能性がありましたが、5月への延期というフェア関係者の迅速な対応により結果、素晴らしいフェアとなりました。海外からのコレクターが少ないに関わらず、フェアには香港のコレクターやアート愛好家達、また果敢にも隔離期間を経て参加下さった海外からの来場者など素晴らしい観客が集結しました。広い通路や作品を見ながら相談しやすい空間があった事も、ギャラリーと来場者双方にとって優れた結果をもたらしました。最初の3日間には重要なコレクターグループも来場し作品を購入されました。売上は非常に好調で、新型コロナに伴う制限を鑑みても、香港は依然としてアジアにおけるファインアートの中心地であり、アートバーゼル香港と共に今後もその中心であり続けると思います。」

フレッド・ショール、創設者・ディレクター、ギャルリ・デュモンド（香港）

「M+が今年正式オープンして初めてのアートバーゼル香港となり、香港の街には驚くほどのエネルギーが満ちています。再び皆様に直接お会いし、また地域の重要な私立美術館や財団、コレクションに作品をおさめることが出来たことをとても嬉しく思います。一方、内容豊富なOVRやWeChatコンテンツ、ライブ配信によるガイドツアーなどを通して世界の観客とも繋がる事が出来、質の高いコンテンツと作品への熱意が変わらず高いことも証明されました。近いうちにまた我々のアーティストによる作品をこの地域で紹介することを楽しみにしています。」

Lihsin Tsai、シニアディレクター、ハウザー&ワース（香港、グシュタード、サンモリッツ、チューリッヒ、ロンドン、サマーセット、ロサンゼルス、ニューヨーク）

「初めて参加する若手ギャラリーにとって、アートバーゼル香港の一員として関わられたことは感動的です。フェアに長年関わるコレクターやキュレーターなどとの新しいネットワークに触れ、まるで自身の足元の地面が動いているように感じました。物理的に香港にいるのと同じではありませんが、ズームを通して皆様に会えることをとても嬉しく思います。ブースには常設のスクリーンが設置されており、ギャラリーやアーティスト双方と話すことを希望される来場者の方々と会うことが出来ました。」

カティンカ・タバカル、ディレクター、カティンカ・タバカル・ギャラリー（ブカレスト）

「規制が緩和され続け、香港とその他の地域がパンデミックの最も困難な時期から脱しつつある中、今年のアートバーゼル香港においてホワイトキューブに所属するアーティストの作品約40点を展示した多様なプレゼンテーションを実現出来たことを嬉しく思います。予想通り結果は非常に良好で、そのセールスの大部分を地元のコレクターが占めました。初日には7点の作品を売上げ、その額は100万英ポンド（130万USドル）を超えました。」

ウェンディ・シイ、ジェネラルマネージャーアジア、ホワイトキューブ（香港、ロンドン）

「インドネシア人アーティストを含む大部分の作家の作品を売り上げることが出来、我々ギャラリーにとっては非常に喜ばしい経験となりました。OVRも非常に好評で、所属するインドネシア人アーティストへの多大な興味を確認することも出来ました。これがインドネシアの芸術が世界的に受け入れられ、国際的なアートシーンで評価されるという信念への貢献となることを願っています。」

リザ・マーカス、マネージャー、ガジャ・ギャラリー（ジョグジャカルタ、シンガポール）

「全ての人々にとって未だ困難が伴うこの状況の中で我々の行った努力を、アジアにおける顧客の多くが認めて下さったように思います。彼らはヨーロッパがロックダウンの最中にも支援下さり、新型コロナ後初の開催となったアートバーゼル香港も支えてくれました。物理的にフェアに参加する事は出来ませんでした。香港の友人達が我々のアーティストの作品を鑑賞してくれたことを嬉しく思います。総じて、今回のフェアには満足して

おり、再び香港に戻れる日が待ち遠しく思います。」

ダニエル・バリツェ、共同創設者、バリツェ・エアトリング (パリ)

「世界中からのコレクターはオンラインフェアに非常に慣れてきており、我々の展示した作品やビデオに対してとても熱心に興味を傾けてくれました。」

パール・ラム、創設者、パール・ラムギャラリー (香港、上海)

「アートバーゼルは、ギャラリーがコレクターや業界の人々と会うためのアートフェアとしてだけでなく、フェアの持つ全ての強力なネットワークを通じて、前例のないレベルでアーティストをプロモートするためのプラットフォームとしても重要な役割を果たしています。我々の作家の作品をアジアの重要なプライベート並びに美術機関のコレクションにおさめられたことを嬉しく思います。」

河島まりこ、ギャラリーディレクター、アクセル・フェルフォート・ギャラリー (アントワープ、香港)

「今年の展示は、パンデミック以前と同等の盛り込み多くなりました。渡航制限があるにも関わらずフェアオープン直後から強力なセールスが見られ、それは期待を上回る程でした。」

シャシャ・ティットマン、ディレクター、リーマン・モーピン (香港、ソウル、ロンドン、ニューヨーク)

「実会場で参加出来るのがもちろん望ましかったのですが、私たちの展示内容はサテライトブースに特に合っていたように思います。展示した全てを売上げ、作品を中国と日本の優れたプライベートコレクションにおさめることが出来ました。」

アナト・イービージーアイ、オーナー、アナト・エブギ (ロサンゼルス)

「アートバーゼル香港での初日は非常に満足のゆくものでした。各5万ドルから30万ドル程度の作品を売上げ素晴らしい経験となりました。ブースへの反応も好意的で、素晴らしい作品を展示出来たことをとても嬉しく思います。」

クラウディア・アルベルティーニ、シニアディレクター、マッシモ・デ・カルロ (香港、パリ、ミラノ、ロンドン)

「アートバーゼル香港の復活を非常に喜ばしく歓迎しています。また、LGDR のグローバルローンチ後初となるブースにおいてアートコミュニティを迎えることが出来、本当に感動しています。個人コレクターや美術機関を含む方々が我々の展示に多大な興味を示して下さい、また熱意と知識を持った若手コレクターが相当数いたことも印象的でした。」
レベッカ・ウェイ、共同創設者・会長、LGDR（パリ、香港、ロンドン、ニューヨーク）

「アートバーゼル香港での経験にとっても満足しています。様々なアーティストの作品を20点近く展示致しましたが、アジアにおけるコレクター陣の素晴らしい作品を望む意欲は、いまだ信じられないほど強力です。」

ニック・シムノビッチ、マネージングディレクター、ガゴシアン（香港、パリ、アテネ、ローマ、バーゼル、ジュネーブ、グシュタード、ロンドン、ビバリーヒルズ、ニューヨーク）

「この困難な世界情勢の中にあっても、ここでのアート市場は非常に強力だと感じます。今回、多くの地元の若手コレクターと出会うことが出来ました。M+のオープンは多くの新しい観客を引き込む一助となったと思います。それは香港のアートシーンにも良い影響を与えています。」

南塚真史、創設者、ナンスカ（東京、香港）

「今年のアートバーゼル香港はとても励みになり、またビジネスも活気に満ちていました。香港フェアはいつも明快で、コレクター陣は自身のコレクションに関して迅速な決定を下します。皆様に会うことが叶い、また市場の勢いの再開も実感出来、非常に嬉しく思います。」

ヘンリエッタ・ツイ-リョン、創設者、オラ-オラ（香港）

「この1週間、私たちは既知の友人や顧客との再会はもちろん、多様なバックグラウンドを持ち、我々ギャラリーのプログラムやアーティストへ強い関心を示す新しいコレクター陣にも出会う機会もありました。フェアは引き続き地域市場をまとめる力を持つ貴重なプラットフォームであり、その事は多くの人々が考える以上の価値があるのです。」

レオ・シイ、シニアディレクター、デイヴィッド・ツヴィルナー（ニューヨーク、ロンドン、パリ、香港）

ギャラリーズ部門

フェアメインの当部門では、世界の主要ギャラリー96軒がアジア並びに世界各地の多様なアートシーン、その類稀な概観を舞台にあげ、20世紀の先駆的实践と最先端の立ち位置との予期せぬ新たな出会いを創出しました。ハイライトの一部に、ロッシ&ロッシよりカトマンズ生まれでオークランドを拠点とするアーティスト、**ツェリン・シェルパ**作品を概観する展示や、ビタミンクリエイティブスペースによる先駆的現代美術家・**ゼン・グオグ**と**パク・シュウン・チュエン**の新作紹介、またプロジェクトス・モンクロバからは、**エドゥアルド・テラサス**、**ガブリエル・デ・ラ・モラ**、**エドガー・オルライネタ**ら三人の異なる年代のメキシコ人アーティストの作品を通して同国の現代美術の実践への洞察が展開されました。また香港フェア初参加となったヤーン・ウント・ヤーンからは「秩序ととし（Order and Signs）」と題された**アンリ・ミショー**の1970年代と1980年代の作品が紹介されました。ギャラリー部門の全参加ギャラリーリストは、artbasel.com/hongkong/galleries をご参照下さい。

インサイト部門

16軒のギャラリーが参加した本年のインサイト部門では、アジア並びに太平洋地域の重要なアーティスト陣の作品を通じたキュレーション展示が展開されました。ハイライトの一部に、ア・サウザンド・プラトーズ・アートスペースより、パンデミック下のニューヨークで制作された一連の新しい絵画を含む、**ワン・チュアン**の過去30年間に及ぶその創造的な進化を紹介した展示や、南シナ海と香港の境界線の同時代的映像と歴史的なアヘン戦争遺跡の画像を対比的に併置する**ジェームズ・T・ホン**の2チャンネルフィルムがエンブレイ・ギャラリーから、またアクセル・フェルフォート・ギャラリーは1960年代・1970年代から近年の作品に至る**今井祝雄**の学際的な実践を紹介しました。インサイト部門の全参加ギャラリーリストについては、artbasel.com/hongkong/insights をご参照下さい。

ディスカバリーズ部門

個展形式で新進アーティストを紹介するディスカバリーズ部門では今年、18軒のギャラリーによる展示が展開されました。初参加となったマイア・コンテンポラリーからは、ラジカセやレコードプレーヤー、磁気テープやラジオレコーダーといった時代遅れの機器を取り入れることで失われた世代の文化的残骸に光をあてる**シスコ・ヒメネス**の絵画と彫刻の新作シリーズが紹介され、カティンカ・タバカルからは、厳格なモノクローム絵画で知られるスリナム人アーティスト、**ザビエル・ロブレス・デ・メディナ**の作品が展示されました。またその他のハイライトに、アナト・イービージーアイによる、抽象化と静物画の伝

統を拡張する**アレック・イーガン**のみずみずしい絵画や、CLC ギャラリーベンチャーによる、夜の熱帯雨林に着想を得て制作された**范西**による没入型作品「The Temptation」シリーズ、そしてバンコク・シティシティ・ギャラリーから、特有のブロンズ彫刻と超現実主義的ドローイングから成る**デュサディー・ハンタクーン**の新しい作品群「世界を見通すレンズ (A Lens to See the World Through)」などが紹介されました。ディスカバリーズ部門の全参加ギャラリーリストについては、artbasel.com/hongkong/discoveries をご覧下さい。

フィルム部門

北京とチューリッヒを拠点とするマルチメディアアーティストでプロデューサーの**リー・ゼンフオア (Li Zhenhua)** がキュレーションを務めるフィルム部門では、アーティストによるアーティストに関する 15 作品が、香港芸術センターのルイス・クー・シネマにおける 3 回の上映を通して紹介されました。アーティストらが 70 年代後半から現在に至る身体的、精神的な可動性の解釈を探求した 8 本の映画から成る「Bird with no legs (脚のない鳥)」は、**マイラ・チャン**、**ジョン・チャウ**、**カイル・チャン**、**Chung Wing Shan**、**アーロン・ラム**、**エンジェル・リャン**ら共同キュレーター陣と共に、Videotage がキュレーションを担当しました。

編集者の皆様へ

アート・バーゼルについて

1970 年、バーゼルのギャラリストたちによって設立されたアートバーゼルは、近現代アートを紹介する世界随一のアートフェアを、バーゼル、マイアミビーチ、香港、そしてパリで開催しています。開催都市と地域によってそれぞれのフェアには独自性が生まれ、それは参加ギャラリーや展示作品、また各回毎に地元機関とのコラボレーションの元同時開催されているプログラム内容にもあらわれています。アートバーゼルの役割はアートフェアの領域を超えて拡大しており、新しいデジタルプラットフォームやアートバーゼルと UBS によるグローバル・アートマーケットリポート、インターセクションズ：アートバーゼルポッドキャストや BMW アートジャーニーなどの新しいイニシアチブを展開しています。詳しくは artbasel.com をご参照下さい。

パートナー

UBS & コンテンポラリーアート

アートバーゼルのリードパートナーである UBS は、長年にわたり、現代アート並びにアーティストの支援を続けてきました。同社は世界的に最も優れた企業アートコレクションのひとつに数えられるコレクションを保有しており、アートバーゼルのグローバル・リードパートナーシップを通じて、また「アートバーゼルと UBS | グローバルアートマーケットレポート」の共同発行者として、アートマーケットにおける国際的な対話促進に務めています。UBS はまた、スイスのバイエラー財団、オーストラリアのニューサウスウェールズ州立美術館などの美術機関とも提携しています。同社は UBS コレクターサークル並びに UBS アートアドバイザリーの活動を通じて、アートマーケットや蒐集、レガシープランニングに関する知識をクライアントに提供しています。UBS による現代アートへの取り組みの詳細については ubs.com/art をご参照下さい。

アートバーゼルのアソシエイト・パートナーは、オーデマ・ピゲです。同社の現代アートプログラムである「オーデマ・ピゲ・コンテンポラリー」は、国際的に活躍するアーティストへのコミッション依頼を通して、その作品制作を支援しています。アートバーゼルはまた、BMW、ラ・プレーリー、ルイナールなどの全面支援を受けています。アートバーゼル香港は、テゾス、香港政府観光局、スワイヤ・プロパティーズ（太古地産）、ザ・マツカラン、ローズウッドホテルズ&リゾーツ、クインテセンシャルリー、そして タイピンの支援を受けています。アートバーゼルのグローバルメディアパートナーは、フィナンシャルタイムズです。パートナーシップについての詳細は artbasel.com/partners をご覧下さい。

今後のアートバーゼル開催予定

バーゼル、2022年6月16日-19日

Paris+ アートバーゼル、2022年10月20日-23日

マイアミ・ビーチ、2022年12月1日-3日

香港、2023年3月

オンラインプレス情報

プレス情報、画像は artbasel.com/press から直接ダウンロード頂けます。

報道関係者はメディアメーリングリストにご登録頂くと、アートバーゼルの情報を受け取ることができます。

アートバーゼルに関する最新情報は artbasel.com をご覧下さい。また、Facebook ページは facebook.com/artbasel、インスタグラム・ツイッター・Wechat では @artbasel にてフォロー頂けます。

プレス連絡先

アートバーゼル | Sarah Degen (インターナショナルメディア対応)
電話 +41 58 206 27 74、press@artbasel.com

アートバーゼル | Fay Pang (アジアメディア対応)
電話 +852 3575 8487、press@artbasel.com

アジア向け PR 担当
SUTTON | Carol Lo
電話 +852 2528 0792、carol@suttoncomms.com

欧州向け PR 担当
SUTTON | Joseph Lamb
電話 +44 7715 666 041、joseph@suttoncomms.com

南北アメリカ、中東、アフリカ向け PR 担当
FITZ & CO | Yun Lee
電話 +1 646 589 0920、ylee@fitzandco.com